

# 調 査 速 報

## 日本海スケトウダラ資源調査結果 ——計量魚探——

北海道立総合研究機構中央水産試験場(0135-23-7451)・稚内水産試験場(0162-32-7177)

函館水産試験場(0138-83-2892)

ホームページアドレス

<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/suketou/index.html>

- ・全体の産卵群分布量は2014年の約9割
- ・北部海域(利礼～雄冬沖)は2014年の1.3倍
- ・南部海域(石狩湾以南)は2014年の約8割
- ・北部海域では尾叉長30～34cm(2012年級群)の魚に加え、40～47cm(2006年級群)の魚も分布
- ・南部海域は尾叉長41～52cmの成魚と30cm台後半(2010年級群)の魚が分布

道総研水産試験場で実施したスケトウダラ計量魚探調査結果をお知らせします。

### 1. 調査海域と期間

- ・調査期間:2015(平成27)年10月7日～23日(一部のラインは11月7日～8日)
- ・調査海域:水深200mより深い海域(図1)
- ・試験調査船:北洋丸, 金星丸(計量魚探, 着底トロール)

### 2. 調査結果

計量魚探による海域全体の魚群分布状況を図2, 主要な調査ラインの魚探反応を図4, 産卵群の推定分布量を図6に示しました。

#### 【魚群分布】

- ・スケトウダラ産卵群の推定分布量は, 海域全体で2014年の約9割, 北部海域では1.3倍, 南部海域では約8割でした(図2, 6)。
- ・南部海域の分布量を海域別に見ると, 石狩湾では2014年並みでしたが, 岩内湾や檜山海域では2014年よりもやや少なくなりました(図2)。

#### 【魚体サイズ】

- ・北部海域の魚体サイズは, 武蔵堆西側から雄冬岬沖にかけて2012年級群主体と見られる尾叉長30cm台前半の魚群が多く分布し, 武蔵堆西側の深みでは2006年級群主体と思われる40cm台も分布していました(図3)。
- ・南部海域の岩内湾の魚体サイズは尾叉長39cm前後の2006年級群と2010年級群と思われる成魚が中心でした(図3)。
- ・南部海域の檜山海域の魚体サイズは大成沖では尾叉長40cm前後, 奥尻海脚では40～43cmの2006年級群と思われる魚が主体でしたが, 30cm台後半の2010年級群と思われる魚も分布していました。松前小島沖では39～54cmの大型魚主体でした(図3)。

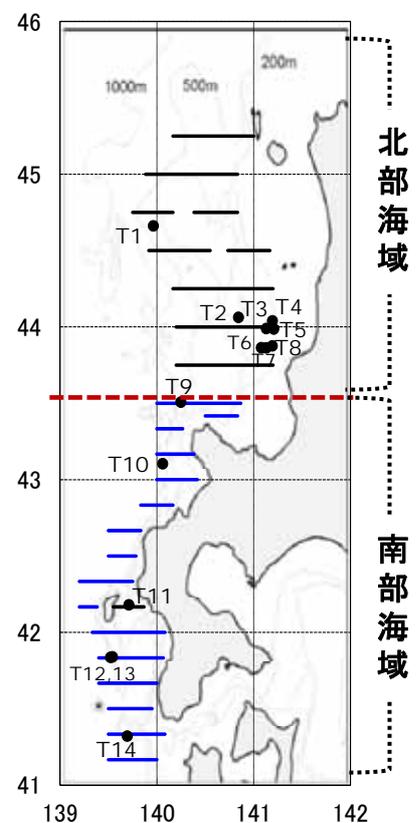


図1 調査海域

直線は魚探調査ライン(北部海域:黒ライン, 南部海域:青ライン)

●(T1～T14)はトロール調査

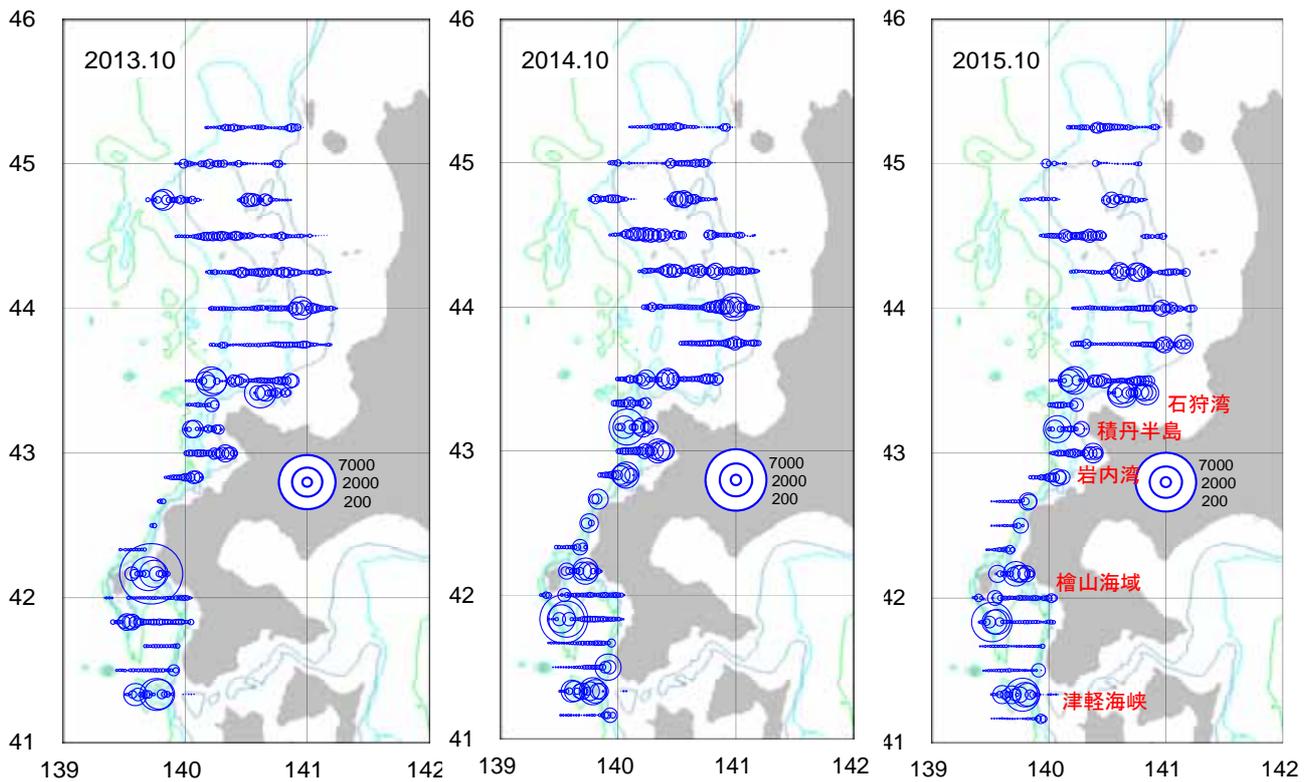


図2 スケトウダラ分布図(魚探反応量;SA)

左:2013年,中:2014年,右:2015年(円の大きさは,スケトウダラの反応の強さを示す)

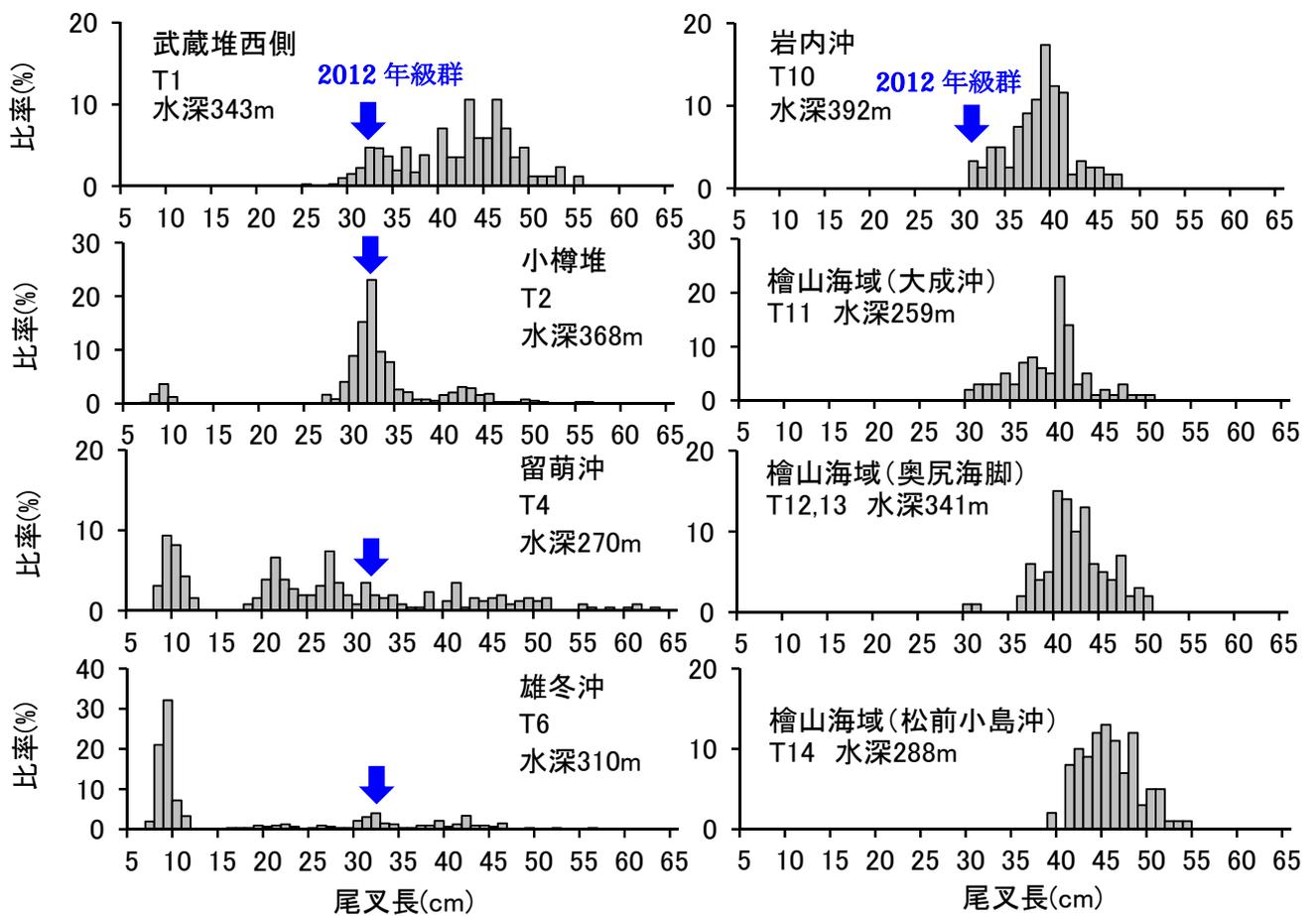
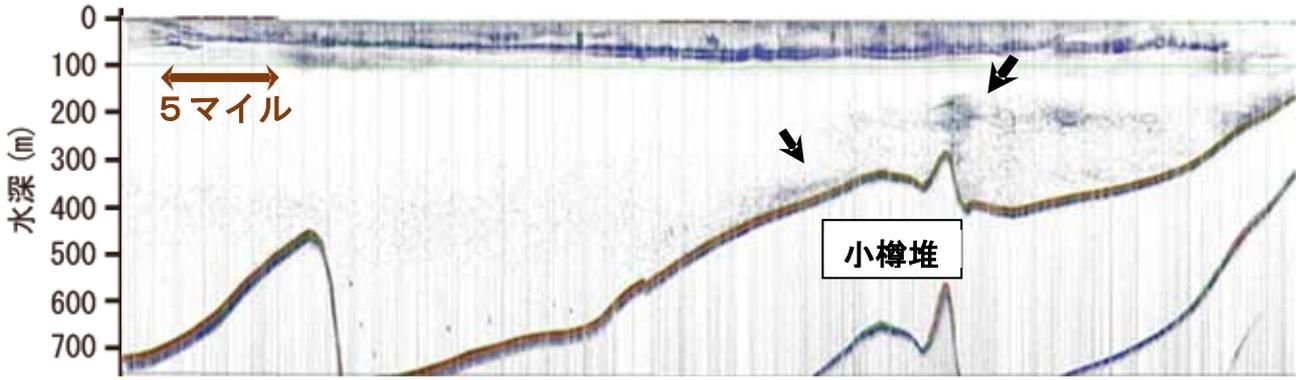


図3 トロール調査で採集されたスケトウダラの体長(尾叉長)

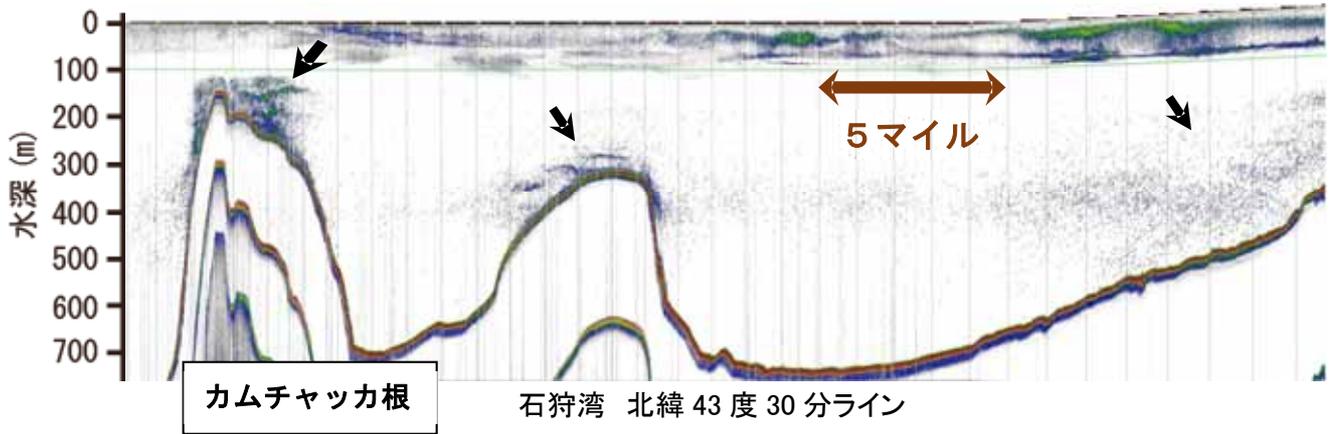
トロール地点は図1に示した。

西

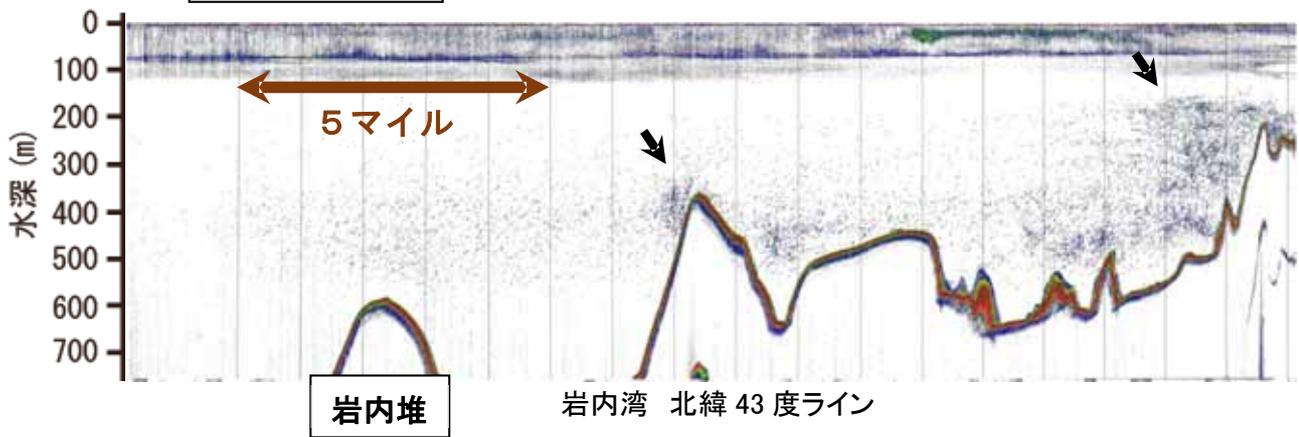
東



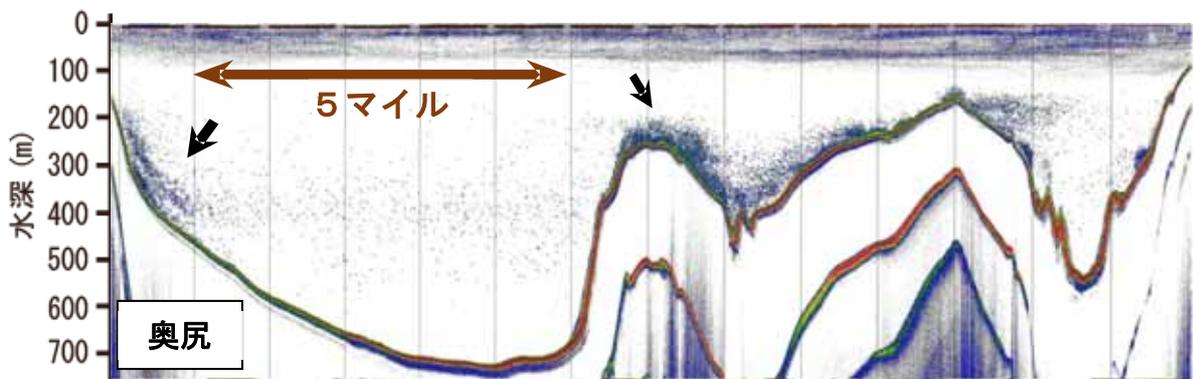
武蔵堆南部～小樽堆 北緯 44 度ライン



石狩湾 北緯 43 度 30 分ライン



岩内湾 北緯 43 度ライン



檜山海域 北緯 42 度 10 分ライン

図4 スケトウダラの魚探反応図(夜間)

※矢印  はスケトウダラと考えられる反応

## 【水温環境】

9月の100m層水温を見ると、道西日本海海域で広く8℃以上になっていました。道西日本海全体では沿岸域は水温が平年より1℃ほど高めの傾向でした。

### 3. 産卵群の来遊状況と漁況

調査海域全体の分布量から成熟割合を使って産卵群の分布量を算出しました。産卵群の分布量は5.9万トンと、2014年の約9割で依然、低水準です(図6)。

2015年の漁獲物は北部海域が2012年級群(3歳)と2010年級群(5歳)が中心、南部海域は2010年級群と2006年級群(9歳)が中心になると予測されます。なお2007~2009年級群(8~6歳)は、これまでの調査結果から低豊度と考えられること、2006年級群は高齢に伴い減少していること、2010年級群は2006、2012年級群ほど大きくないことから、2015年度の漁況は2014年並みか下回ると予測されます。

**2012年級群(尾叉長30~34cm)は、今回の調査でも多くの海域で確認され、2006年級群に匹敵する高豊度と推定されますが、まだ3歳ですので、本格的に成熟して親魚となるのは来年度からです。産卵する親魚を増やし資源回復を図っていくためには、これまでの資源管理の取り組みを続ける必要があります。**

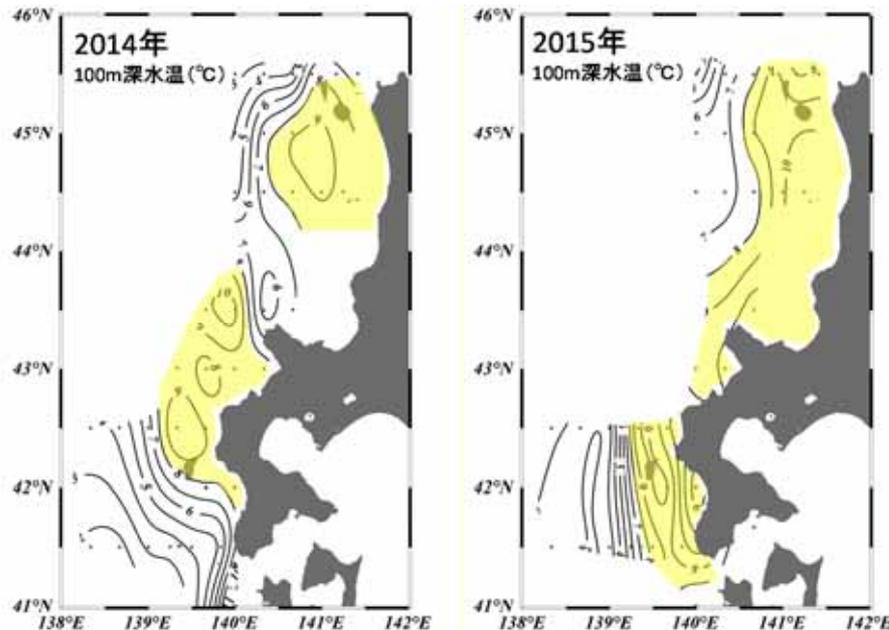


図5 9月の道西日本海100m層水温分布図  
(数字は水温, 塗りつぶした範囲は水温8℃以上)

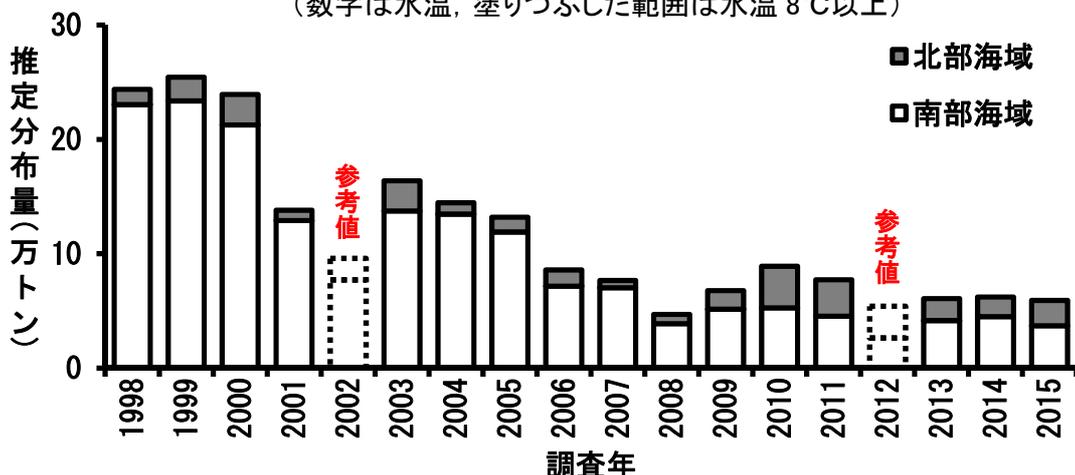


図6 スケトウダラ産卵群の推定分布量(2002年と2012年は参考値)